

§5.2 コンパクト性

p. 223 1. 位相空間  $S$  の部分集合  $M$  がコンパクトであるためには、次の  $(C_M)$  の成り立つ事が必要十分である事を示せ。  
 $(C_M)$   $M$  の  $S$  に於ける任意の開被覆は  $M$  の  $(S$  に於ける) 有限被覆を含む。

解答  $M$  がコンパクトだとする。  $\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  が  $M \subset \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda$  となる  $S$  の開集合族だとする。  $U_\lambda = O_\lambda \cap M$  と置けば  $U_\lambda$  は  $M$  の開集合であり、  $M = \bigcup_{\lambda \in \Lambda} U_\lambda$  となる。 仮定より  $M = U_{\lambda_1} \cup \dots \cup U_{\lambda_m}$  となる  $\lambda_1, \dots, \lambda_m \in \Lambda$  が存在。 このとき  $M \subset O_{\lambda_1} \cup \dots \cup O_{\lambda_m}$  となる。

逆に  $(C_M)$  が成立したとする。  $M$  の任意の開被覆  $\{U_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  をとる。 各  $U_\lambda$  は  $U_\lambda = O_\lambda \cap M$  ( $O_\lambda \in \mathfrak{D}$ ) と表され、  $S$  の開集合族  $\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  について  $M \subset \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda$  となるから、 仮定より  $M \subset \bigcup_{i=1}^n O_{\lambda_i}$  となる有限個の  $\lambda_1, \dots, \lambda_n \in \Lambda$  が存在。 このとき  $M = \bigcup_{i=1}^n U_{\lambda_i}$  となる事は明らか。 よって  $M$  はコンパクトである。  $\square$

p. 223 2. [松坂] 第5章 §2 定理 10

「位相空間  $S$  の有限個の部分集合  $M_1, \dots, M_n$  の何れもコンパクトならば  $M_1 \cup \dots \cup M_n$  もコンパクトである」を示せ。

解答  $M_1 \cup \dots \cup M_n \subset \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda$  となる任意の開集合族  $\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  をとる。 この族は各  $M_i$  を覆うから  $M_i$  のコンパクト性より  $M_i \subset \bigcup_{j=1}^{n_i} O_{\lambda_{i,j}}$  となる  $\lambda_{i,1}, \dots, \lambda_{i,n_i} \in \Lambda$  が存在し、

$$\bigcup_{i=1}^n M_i \subset \bigcup_{i=1}^n \bigcup_{j=1}^{n_i} O_{\lambda_{i,j}}$$

となる。 故に  $M_1 \cup \dots \cup M_n$  もコンパクトである。  $\square$

p. 223 3. 集合  $S$  に於いて  $S, \emptyset$  及び  $S$  の有限部分集合全体から成る  $S$  の部分集合系を  $\mathfrak{A}$  とすれば、  $\mathfrak{A}$  は [松坂] 第4章 §2 p.157 の (Ai), (Aii), (Aiii) を満足し、 従って  $\mathfrak{A}$  を閉集合系とする位相が  $S$  導入される事を示せ。 また、 この位相空間  $S$  はコンパクトである事を示せ。

解答 (Ai) 定義より明らか。

(Aii)  $A_1, A_2 \in \mathfrak{A}$  とする。  $A_1, A_2$  の何れかが  $S$  または  $\emptyset$  のときは自明だから、 共に  $S, \emptyset$  ではないとしてもよい。 このとき  $\#(A_1 \cup A_2) \leq \#A_1 + \#A_2 < \infty$  より  $A_1 \cup A_2$  は再び  $S$  の有限部分集合、 従って  $A_1 \cup A_2 \in \mathfrak{A}$  となる。

(Aiii)  $\{A_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を  $\mathfrak{A}$  の任意の族とする。  $S$  が含まれる場合、 それを除いても全体の共通部分と一致。 また  $\emptyset$  が含まれる場合、 全体の共通部分は  $\emptyset$  となるから、  $S, \emptyset$  は含まれないと仮定する。 このとき  $\#(\bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda) \leq \#A_\lambda < \infty$  だから  $\bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda \in \mathfrak{A}$  となる。

以上より  $\mathfrak{A}$  は閉集合系の公理を満たし、  $\mathfrak{A}$  を閉集合の全体とするような  $S$  上の位相構造が一意に定まる。

$\{U_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を  $S$  の開被覆とする。

$$\bigcap_{\lambda \in \Lambda} U_\lambda^c = \left( \bigcup_{\lambda \in \Lambda} U_\lambda \right)^c = S^c = \emptyset$$

となる。  $U_\lambda \neq \emptyset, S$  となる  $\lambda \in \Lambda$  が存在すれば、 その一つ  $\lambda_0$  を固定。  $U_{\lambda_0}^c = \{a_1, \dots, a_n\}$  ( $n < \infty$ ) と表すとき、 仮定より各  $a_i$  に対し  $a_i \notin U_{\lambda_i}^c$  となる  $\lambda_i \in \Lambda$  が存在。  $\bigcap_{i=0}^n U_{\lambda_i}^c = \emptyset$ 、 従って  $\bigcup_{i=0}^n U_{\lambda_i} = S$  となる。 よって  $S$  の任意の開被覆は有限被覆を持つ。 故に  $S$  はコンパクトである。  $\square$

p. 223 4.  $\mathfrak{D}_1, \mathfrak{D}_2$  は集合  $S$  上の位相で、  $\mathfrak{D}_1 \supset \mathfrak{D}_2$  であるとし、 更に  $(S, \mathfrak{D}_1)$  はコンパクト、  $\mathfrak{D}_2$  は Hausdorff の分離公理を満たすとす。 このとき  $\mathfrak{D}_1 = \mathfrak{D}_2$  である事を示せ。

解答  $S$  の恒等写像  $1_S$  は位相空間  $(S, \mathfrak{D}_1)$  から  $(S, \mathfrak{D}_2)$  への連続な全単射である。また  $(S, \mathfrak{D}_1)$  はコンパクト、 $(S, \mathfrak{D}_2)$  は Hausdorff 空間だから、[松坂] 第 5 章 §2 定理 15 (p.216) より  $1_S$  は同相写像である。□

**p. 223 5.**  $S_1$  をコンパクトな位相空間、 $S_2$  を任意の位相空間とする。このとき直積空間  $S = S_1 \times S_2$  から  $S_2$  への射影  $\text{pr}_2$  は閉写像である事を証明せよ。(位相空間間の写像  $f: X \rightarrow Y$  について、 $X$  の任意の閉集合  $F$  の  $f$  による像  $f(F)$  が  $Y$  の閉集合となるとき、 $f$  を閉写像という。)

解答  $F$  を  $S$  の閉集合とする。  $y \in \text{pr}_2(F)^c$  について、任意の  $x \in S_1$  に対し  $(x, y) \notin F$  だから、 $(U_x \times V_x) \cap F = \emptyset$  となる  $x, y$  それぞれの開近傍  $U_x \subset S_1, V_x \subset S_2$  が存在する。  $\{U_x\}_{x \in S_1}$  は  $S_1$  の開被覆だから、 $S_1$  がコンパクトである事より  $S_1 = \bigcup_{i=1}^n U_{x_i}$  となる有限個の  $x_1, \dots, x_n \in S_1$  が存在する。  $V = \bigcap_{i=1}^n V_{x_i}$  とすれば  $V$  は  $S_2$  に於ける  $y$  の開近傍。仮に  $y' \in V \cap \text{pr}_2(F)$  がとれたとすると  $(x, y') \in F$  となる  $x \in S_1$  及び  $x \in U_{x_i}$  となる  $i$  が存在し、 $(x, y') \in (U_{x_i} \times V_{x_i}) \cap F$  となるが、これは  $U_{x_i}, V_{x_i}$  のとり方に矛盾する。よって  $V \subset \text{pr}_2(F)^c$  となり、 $\text{pr}_2(F)^c$  は開集合、即ち  $\text{pr}_2(F)$  は  $S_2$  の閉集合である。□

**p. 223 6.** 位相空間  $(S, \mathfrak{D})$  に対し、 $S$  に含まれない 1 点  $\{x_\infty\}$  を付け加えた空間  $S^* = S \cup \{x_\infty\}$  に対し、

$$\begin{aligned} \mathfrak{A}_0 &= \emptyset \text{ 及びコンパクトな閉部分集合全体,} \\ \mathfrak{D}_\infty &= \{O \subset S^* : S^* - O \in \mathfrak{A}_0\}, \\ \mathfrak{D}^* &= \mathfrak{D} \cup \mathfrak{D}_\infty \end{aligned}$$

と置く。  $\mathfrak{D}^*$  が  $S^*$  における位相となる事を確かめよ。

解答 (Oi)  $S^* - S^* = \emptyset \in \mathfrak{A}_0$  より  $S^* \in \mathfrak{D}^*$ 。  $\emptyset \subset S^*$  より  $\emptyset \in \mathfrak{D}^*$  は自明。

(Oii)  $O_1, O_2 \in \mathfrak{D}^*$  とする。  $x_\infty \notin O_1 \cap O_2$  ならば p.220 (2.3) に注意すれば  $O_1 \cap O_2 = (S \cap O_1) \cap (S \cap O_2) \in \mathfrak{D}$ 。  $x_\infty \in O_1 \cap O_2 \in \mathfrak{D}_\infty$  ならば  $S^* - (O_1 \cap O_2) = (S^* - O_1) \cup (S^* - O_2)$ 。  $S^* - O_i$  はコンパクトな閉集合だから、問題 2 と併せて  $S^* - (O_1 \cap O_2) = (S^* - O_1) \cup (S^* - O_2)$  はコンパクトな閉集合となり、よって  $O_1 \cap O_2 \in \mathfrak{D}_\infty$  となる。

(Oiii)  $O_\lambda \in \mathfrak{D}^*$  ( $\lambda \in \Lambda$ ) とする。  $x_\infty \notin \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda$  ならば  $O_\lambda \in \mathfrak{D}$  だから  $\bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda \in \mathfrak{D} \subset \mathfrak{D}^*$ 。  $x_\infty \in \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda$  のとき、

$$\begin{aligned} S^* - \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda &= S^* - \left( \left( \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda \right) \cup \{x_\infty\} \right) = S^* - \left( \bigcup_{\lambda \in \Lambda} (O_\lambda \cup \{x_\infty\}) \right) \\ &= \bigcap_{\lambda \in \Lambda} (S^* - O_\lambda \cup \{x_\infty\}) = \bigcap_{x_\infty \in O_\lambda} (S^* - O_\lambda) \cap \bigcap_{x_\infty \notin O_\lambda} (S - O_\lambda). \end{aligned}$$

$x_\infty \in O_\lambda$  ならば  $S^* - O_\lambda$  は  $S$  のコンパクト閉集合、 $x_\infty \notin O_\lambda$  ならば  $S - O_\lambda$  は  $S$  の閉集合だから  $S^* - \bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda$  はコンパクト閉集合となり、従って  $\bigcup_{\lambda \in \Lambda} O_\lambda \in \mathfrak{D}_\infty$  となる。

以上より  $\mathfrak{D}^*$  は開集合系の公理を満たし、従って  $S^*$  上の位相構造を定める。□